



## 〔調査報告書要約〕

別紙(損保ジャパン仙台ビル)の不動産に関する平成17年6月27日付(発行番号 研仙コ第01473号)調査報告書の要約内容につき、下表のとおりご報告いたします。

		(千円未満を四捨五入して表示)	
		内容	根拠等
調査機関		財団法人 日本不動産研究所	
調査価額		3,290,000,000円	
価格の種類		特定価格(現実の社会経済情勢の下で合理的と考えられる条件を満たす市場で形成されるであろう市場価値を表示する適正な価格(正常価格)との特段の差異はないものと認められる)。	
試算価格調整方法		直接還元法とDCF法を併用して査定した収益価格を採用し、積算価格を参考に留め調査価額を決定した。	
価格時点		平成17年6月30日	
収益価格		3,290,000,000円	
調整方法		直接還元法とDCF法による試算価格を調整した。	
直接還元法による収益価格		3,270,000,000円	正味純収益を還元利回りで還元して試算した。
有効総収益		378,597,000円	潜在総収益から空室損失相当額及び貸倒損失相当額を控除して求めた。
賃料収入(共益費・倉庫・駐車場等を含む)		385,177,000円	現行契約条件及び過年度の実績額等をもとに、新規賃料水準及び今後の動向を勘案して、安定的な収入額を査定。
その他収入(付加使用料収入等)		15,838,000円	過年度の収入及び稼働率を考慮して査定。
潜在総収益		401,015,000円	賃料収入とその他収入の合計。
空室損失相当額		22,418,000円	貸室部分の空室率は5%と見込んだ。
貸倒損失相当額		0円	賃借人の状況等を勘案し、計上しない。
総費用		114,238,000円	下記7項目の合計
対「有効総収益」比率		30.17%	有効総収益に対する比率を百分率で小数点第3位を四捨五入
維持・管理費		78,364,000円	維持・管理費には下記3項目(建物管理費、水道光熱費、プロパティ・マネジメント・フィー)を含む。
建物管理費		—	
水道光熱費		—	
プロパティ・マネジメント・フィー		—	
公租公課		34,200,000円	平成16年度の課税標準額に基づき査定。
損害保険料		1,674,000円	現行の保険料及び類似建物の保険料率等を考慮して査定。
その他費用		0円	過年度実績額を考慮して査定。
賃貸純収益		264,359,000円	有効総収益から総費用を控除して求めた。
一時金運用益		5,049,000円	現行契約条件及び新規賃貸における一時金月数を考慮した安定的な一時金の額に、稼働状況を勘案して査定。
資本的支出		23,846,000円	エンジニアリングレポートによる修繕・更新費用の年平均額を妥当と認め採用。
正味純収益		245,562,000円	賃貸純収益に一時金運用益及び資本的支出を加減して求めた。
還元利回り		7.5%	立地、建物、現行の契約条件等を考慮して査定。
DCF法による収益価格		3,310,000,000円	
割引率		7.1%	長期の金融商品の投資利回り、借入金利、対象不動産の投資用不動産としての危険性等を考慮して査定。
最終還元利回り		7.8%	立地、建物、権利形態等を考慮して査定。
①正味純収益の現価の合計額		1,742,673,000円	
②分析期末の復帰価格		3,209,500,000円	11年目の正味純収益を最終還元利回りで還元して査定。
③復帰実現費用		96,285,000円	分析期末の復帰価格の3%を計上。
④分析期末の正味復帰価値		3,113,215,000円	分析期末の復帰価格から復帰実現費用を控除して査定。
⑤正味復帰価値の現価		1,567,815,000円	
積算価格		2,830,000,000円	
土地比率		21.05%	積算価格に対する比率を百分率で小数点第3位を四捨五入
建物比率		78.95%	積算価格に対する比率を百分率で小数点第3位を四捨五入

不動産の鑑定評価額又は調査価額は、個々の不動産鑑定士の分析に基づく、分析の時点における評価に関する意見を示したものとどまります。同じ物件について鑑定又は調査を行った場合でも、不動産鑑定士、評価方法又は調査の方法若しくは時期によって鑑定評価額又は調査価額が異なる可能性があります。また、かかる鑑定又は調査の結果が、現在及び将来において当該鑑定評価額又は調査価額による売買を保証又は約束するものではなく、不動産が将来売却される場合であっても鑑定評価額又は調査価額をもって売却できるとは限りません。